令和７年度　コミュニティ提案型まち活性化事業
活用事業のご紹介

１　はじめに

■佐久穂町では、コミュニティ団体が主体となり企画実施する、まち活性化事業に対し、補助金を交付しています。

■令和７年度「コミュニティ提案型まち活性化事業補助金」を活用し、コミュニティ団体が提案・実施した、まちの活性化を図る事業の概要を３つご紹介します。

■皆さんも様々なコミュニティの一員として、ご自身のこれまでの経験や保有する人脈、蓄積されたノウハウ等をまち活性化のために活かしてみませんか。皆さんのアイデアややる気を実現するための事業の提案をお待ちしています。

■本内容は、事業実施団体から提出された事業提案書、実績報告書等の内容に基づき総合政策課が作成したものです。

補助金の種類	補助率・限度額・補助回数
(１)チャレンジ部門　　(新規設立団体向け) 「何か始めてみよう」という団体の皆さんにまちづくりへの参加のきっかけを得てもらうことが目的です。 新規に団体を設立し、事業を実施する場合が該当し、具体的には申し込み時点から起算して設立１年以内の団体を対象とします。	補助率：10/10 以内 限度額：20 万円 補助回数：１団体１回限り
(２)ステップアップ部門　(既存団体向け) すでに活動している団体の皆さんに、さらに力を伸ばしてもらうことが目的です。既存事業の発展や新たな事業の確立等段階的にステップアップするための取組が該当します。	補助率：1/2 以内 限度額：20 万円 補助回数：１事業３回まで
(３)集落部門　(区、常会向け) 佐久穂町内の区や常会が、地区の問題点や課題、将来の姿、集落で具体的に取り組むこと等検討し将来計画を策定することが目的です。地区の役員だけでなく、女性や若者を交えての計画策定が該当します。	補助率：10/10 以内 限度額：５万円 補助回数：１団体１回限り

２－１　事業紹介（１）

事業名	佐久穂型ふるさと遺産活用モデルＲ７ ～むかたんコミュニティ・社学融合～
団体名	佐久穂町ふるさと遺産収蔵館友の会
団体区分	課題・テーマ共有型コミュニティ
事業区分	ステップアップ部門（３回目）

事業目的

○地域のふるさと遺産を次世代へ継承していく

○地域の「ローカルスタディ（地域研究）」の場として活用していく

○地域の団体・学校と連携して「社会融合」を進めていく

事業内容

○社会教育と学校教育の連携（体験学習や地域交流の機会と場を提供）

○ふるさと遺産一般公開２回開催（７月・10 月）

○町民対象講演会の開催

事業効果

○小学校のむかたんクラブや中学校の地域交流企画を通じて、児童生徒が火起こし体験や足踏みミシン等の操作を行い、昔の生活の工夫や大変さを実感するとともに、試行錯誤しながら取り組む力を育むことにつながった。

○ふるさと遺産一般公開には、436 名ほどの参加があり、実際に体験し学ぶことで、ふるさと遺産を次世代に継承していくきっかけになった。

火起こし体験

町民対象講演会

２－２　事業紹介（２）

事業名	さくほでつむぐコミュニティ
団体名	ネストさくほ
団体区分	地域コミュニティ
事業区分	ステップアップ部門（２回目）

事業目的

○集団活動が苦手な子どもや大人が、地域と触れ合う機会を作り、知ってもらえる事や受け入れてもらえる安心感の持てる繋がりを増やす。

○地域の文化を知り、興味関心を通じて他者との関係を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。一人一人の得意分野を活かし、協働しながら互いに認め合い、助け合うコミュニティを目指す。

事業内容

○お花見交流会や畑作り、川遊びや野菜収穫など、季節ごとに楽しめる場、活動域を広げる場を提供する

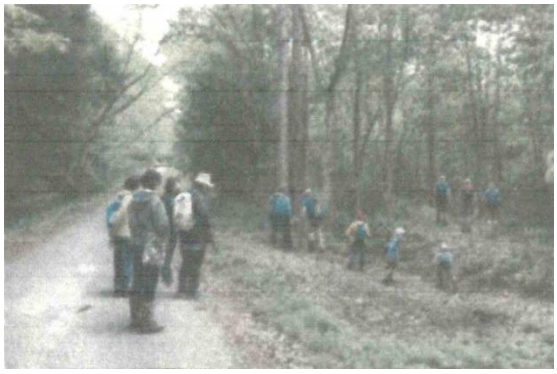
○薬草講座や陶芸教室、野焼き体験教室など、地域の方々と触れ合うイベントを行う

事業効果

○交流イベントを毎月開催することで、参加する子どもたちも増え、異世代交流の場が生まれ、子どもたちと地域を繋ぐコミュニティ作りができた。

○子どもの困り感に寄り添った相談支援や学習会、居場所づくりなどの取組が広がり、安心感を持って過ごせる繋がりが増えた。

川遊び



薬草講座

２－３　事業紹介（３）

事業名	そしじカフェ
団体名	そら音
団体区分	地域コミュニティ
事業区分	チャレンジ部門

事業目的

○食を通じてのコミュニティ作り

○人と町のつながり作り

事業内容

○毎月１回、茂来館において、大人と子どもが交流する多世代交流の機会を創出し、バイキング形式による食事の提供を通じて交流の促進を図る。

事業効果

○親の共働き等の家庭環境の変化により、家族がそろってゆっくり食事をする機会が少なくなっている。子どもカフェでは、温かい食事を囲む中で人と人との会話が自然に生まれ、子どもたちが安心して過ごせる時間の提供につながった。

○毎月の開催を継続することで、子ども同士の交流に加え、保護者間の情報交換や地域住民と移住者との交流の拡大につながった。

子どもカフェの様子